



令和8年度
学校だより

Attractive Azuma
つなぐ

吾妻学園
つくば市立吾妻中学校
第16号
発行日 R8. 7. 3

教育実習から「授業」を考える (1)

今年度も教育実習生を受け入れ、現在は2回目の教育実習期間として、卒業生の大橋さんが社会科の教員として実習を行っています。教員不足が社会問題となる中、教員免許を取得する学生が実習に来ていることは、私たち教職員にとっても喜ばしいことです。

さて、実習生の授業を紹介します。まだ数回の授業とのことでしたが、生徒が「主体的・対話的で深い学び」(文科省)となるように授業を行っています。6月30日(火)の9年生の授業では、戦後日本の「緊張緩和」や「日本外交」について、教師の示した問い(以下「課題」)に対して、グループごとに6つのトピック(朝鮮戦争、A・A会議、部分的核実験禁止条約ほか)を分担して資料等で調べ、班内で各生徒が自分の調べたトピックについて説明し合い、共有をしました。生徒はただ伝えるのではなく「簡単に言うと…」「なぜ起こったかという…」等、工夫して説明し合うとともに、分からないことを質問し合っていました。さらに確認として、各班の代表生徒が6つのトピックを説明し、先生が補足していました。以前なら、先生が板書して説明するのが、社会科の授業の定番。いかに分かりやすく説明し板書するか等、先生の話術やその豊富な知識に重点が置かれていた時代もありましたが、現在はそのような授業はありません。大橋さんは今求められている授業を、指導教員の細見先生の指導の下、実習を通して学んでいます。



グループでトピックを共有

短時間でスライドを作った生徒も

「問い」(課題) と 協働的な学び(ペアやグループでの学び)の大切さ

また、1回目の実習では近隣の大学から来た、森さん・竹内さんの2名が実習を行いました。森さんの数学の授業では、生徒の知的好奇心を高め、夢中になって学べる「課題」による授業が展開されました。この日の内容は、平方根を含む数の大小。示された2つの数の大小を生徒たちが調べ、「もしかすると同じ?」という疑問から、この日の課題(右)ができました。いつもは一人一人離れて座っていますが、机を近づけるよう指示をすると、最初は一人で考えていましたが、すぐにあちこちで対話が始まります。生徒の頭脳はフル回転。いろいろなペアに耳を傾けると、試行錯誤したり、説明しながらひらめいたり「深い学び」の姿がありました。

$$\frac{1}{3-2\sqrt{2}} \text{ と } 3+2\sqrt{2} \text{ は同じになるのか}$$

授業の冒頭で示される課題は、やさしすぎると(分かりきったことでは)学習への意欲は高まらず、学ぼうとしません。この日は中学生でもできる高校レベルの課題(右)で、最初、大部分の子がすぐには分からない課題。実はこの課題、実習生とともに、本校の数学科教員、淵上・篠塚・宮内の3名の先生が考えた課題です。本校の教員の指導により実現した、素晴らしい授業でした。



課題に対して、ペアで対話を繰り返す様子

そして、ペアだけでなく、前後で自然に対話が広がる